

これからの FPには何が 求められて いるのか!?

1980年代前半に

我が国にFPの考え方が伝わって
きてから、30年以上が経過した。

この間、FP資格取得者は増加の一途をたどり、
資格を活かして多方面で活躍する方々が増えている。

一方で、FPの認知度・必要性をさらに高め、FP業界全体として
もう一段の躍進を遂げるべき時期にあるともいえる。そこで200号を迎える小誌では、
「これからのFPはどうあるべきか」について、6名のFPの方々にご寄稿いただいた。

200号記念に寄せて

平素、「ファイナンシャル・アドバイザー」誌をご愛読いただきありがとうございます。

小誌は、我が国におけるFPの草創期、FPの機運が高まりました1987年10月に創刊・船出しました。航海図も白紙に近い状況の中で、羅針盤の役割を果たそうと、志高く、小誌をはじめ様々なFPツール・教材の制作に没頭していたことを思い出します。

その後、6年半・通巻78号、未曾有のバブルの膨張と崩壊をFPの立場で捉え情報提供した小誌は、その役割を終え1994年3月号をもって休刊しました。雑誌の休刊は通常廃刊を意味しますが、世にも稀なことに、1999年1月号で、小誌は再創刊することができました。以来16年半、皆さまのご支援のおかげで、通巻200号を迎えることができました。

再創刊第1号の特集は「99FPは飛躍する」です。時あたかも金融ビッグバンのただ中、少子高齢化が始まろうとする時代、FPに対する世の中のニーズが再び大いに高まろうとする時代

でした。

そのニーズに応え、FPは果たして大いに飛躍できたでしょうか。

2002年度に始まったFP技能検定は、2014年度までの累計（1級〜3級）で延べ146万人の合格者。FP技能士を輩出してきたそうです。

まさに「ヘアー」の一語に尽きる隆盛ですが、それに見合う金融リテラシーの土壌が作り出されてきたか、DCなどにおける投資レベルの向上が図られてきたか、などを問えば、無論未だしの感深しです。

もとより、FPの啓蒙・普及の一翼を担うと自負する小誌としても反省するところ大です。99年の創刊号の奥付に「机上の知識、量の上の水練ではなく、常に実践実務に役立つ情報を提供すること」という編集方針を掲げました。これは小誌の変わらぬ編集方針であり、今後とも真に役立つ情報提供に努めて、FP業界発展のため、我が国の金融リテラシーの向上のため、皆さまとともに歩んでいきたいと思えます。引き続きまして、ご指導ご鞭撻、ご愛読をお願い申し上げます。

（1999年創刊時編集長・代表取締役社長 福地 健）